

## 2014 年度 立命館学校教育研究会 春季大会(総会・講演会)

2014 年 6 月 8 日 (日)、衣笠キャンパス末川記念会館において、2014 年度 立命館学校教育研究会 春季大会 「総会」・「講演会」・「シンポジウム」を開催し、会場には総勢 100 名を超える同会会員、学生、教職員が参加した。総会では、米山裕会長(教学部長)による開会挨拶の後、森田真樹事務局長(教学部副部長)より「2013 年度活動報告および 2014 年度事業計画」を提案、承認された。引き続き米山会長より 2014 年度運営委員について提案があり、承認された。

講演会は、谷晋二・文学部教授が「発達障がいを疑われる児童・生徒とその保護者とのかかわり方」というテーマで講演を行った。行動分析学の立場からの実験、実践経験をもとに困難を抱えている保護者がどのように考え、行動を起こせばいいのかを実証的に研究されており、具体的な事例をもとにスキルをどのように習得していくかをわかりやすく報告。教育・文化・社会による「ことばと行動」の密着性の問題や両者のスペースを広げることの重要性などにも触れた。

引き続き、シンポジウムに移り、二井弘泰氏(京都府立朱雀高等学校教諭)からは文部科学省「高等学校における発達障がい支援モデル事業」として取り組まれた朱雀高等学校における「特別支援教育」の取組の実践を、野本実希氏からは近江兄弟社高等学校でのスクールソーシャルワーカーとして関わってきた経験の報告が行われた。質疑応答の後、指定討論者の谷教授より討論のまとめが行われ、シンポジウムは終了した。

春季大会は、岡本真一副会長の閉会の辞を持って幕を閉じた。

その後、会場をうつし、講師を囲んでの茶話会を開催した。立命館学校教育研究会顧問の崎野隆氏からの挨拶および乾杯を皮切りに、40 名を超える会員、学生、教職員が集い、和やかな雰囲気の中講師を囲んで熱心なやり取りが行われ、会員相互の懇親を深めた。

最後に、井上政嗣副会長より閉会の挨拶が行われ、茶話会は終了した。



● 総会の様子



● 講演会の様子



講師を囲んでの茶話会